

大同特殊鋼

工具鋼販売価格引き上げ

7月納入から 原料高受け全種

大同特殊鋼は21日、原材料や資材価格の高騰を受けて、本年7月納入分から工具鋼製品の価格を改定すると発表した。同社ではこれまでモリブデン、バナジウム、タンクステン、コバルトの主要4原料については価格スライド制を実施してきたが、4主要原料以外のニッケル、クロム、特に鉄スクラップ価格の上昇が進んでいるほか、電力などエネルギー関連、設備関係の治工具なども値上がりしていることから価格引上げに踏み切る。

改定は工具鋼全製品を対象とした鉄スクラップ・エネルギー関連・諸資材価格高騰分として5-12%、ニッケル含有工具鋼でニッケル価格高騰分が6-8%、低採算品目で3-10%。改定はひも付き、

ラスチック金型用鋼5-10%、高速度工具鋼5-10%。ニッケル価格高騰分は熱間金型用鋼6-8%、プラスチック金型用鋼6-8%。低採算製品は著しく採算の低い製品を対象としている。

また、輸出価格についても国内向けに準じて価格改定、モリブデン、バナジウム、タンクステン、コバルトの価格スライド制も継続していく。

今回改定のうち、鉄-関連・諸資材価格高騰分は冷間金型用鋼8-12%、ブ